

第1回 ケア・カフェよねざわ 開催報告

開催日時：平成27年8月4日（火）

18：15open 19：30closed

テーマ：聞いてみよう 話してみよう 緩和ケアのこと

参加人数：18名

参加職種：保健師、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパー、
臨床仏教師、医師、病院看護師

マスター：黒田

テーブルマスター：東郷医師、伊藤臨床仏教師

プログラム

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1.オープニング はじまりの言葉 | 川村博司 |
| 2.ケア・カフェの概要説明（プレゼン形式） | 黒田美智子 |
| 3.話題提供 | 加藤佳子 |
| 4.chat1（chat おしゃべりの意味） | アイスブレーキング（自己紹介・マイブーム）、対話 |
| 5.席替え | テーブルホスト以外他のテーブルへ移動 |
| 6.chat2 | 今回は、実施せず |
| 7.chat3 | 全体の情報共有 |
| 8.chat4 | フリータイム |

chat1・chat3から

ケア・カフェでは、職種を超えて話がしやすい、リラックスした雰囲気づくりを重視している。本日のカフェのように音楽と飲み物やお菓子、忘れてはならないのは、笑顔。今回、アイスブレーキングとして行った自己紹介でのお題は、「マイブーム」である。最近の楽しみや趣味についてしゃべりだすと話題が大きく広がった。悩み相談や情報共有を目的とした参加者が、利用者や家族、自分の身に起きた出来事や経験談、失敗談を夢中で話す。話すことにより、自分の中で不明瞭だった問題が明確になっていく。施設や在宅の現場で不安の要素となっている見取りや終末期の救急車要請にどう対応していけばいいのか。昨今得た新聞記事や映画のストーリーなども話題にして、緩和ケアを模索していく。地域連携について、連携とは具体的にどうあるべきかを力説する行政の職員。行政の考えを現場に照らし合わせていくとさらに疑問が湧いてくる。ケア・カフェのコンセプトで最も大切にしているのは、フェアな関係性である。したがって、参加した医師とも対等に話ができる。普段、直接聞く事のできない病院医師からのアドバイスや情報は貴重なものとなったようだ。さらに対話は時間が超過してもなかなか終了することがなく続き、フリータイムへ。

まとめ

ケア・カフェは、通常の講演会とは異なり、参加者全員が講師であり聴講者でもある。日頃の悩み事を話せば誰かが共感してくれ、解決法を探してくれる雰囲気がある。職種間の知識レベルの違いは、お互いへの配慮が働き、各テーブルで自然に調和される。

ケア・カフェでは、インフォーマルなリラックスした雰囲気づくりや敷居の高さを感じさせないテーマや運営上の配慮が必要である。そこでの対話を通じて、公式の場では得られにくい地域医療現場の内情を知ることができ、医療者としては関わるヒントが得られる。







医療者・介護者・福祉者のための
ケアカフェ
Blending Communities

「ケアカフェ」は、またたく間に新しいコトバで語り継ぐ、良助会、介護者、福祉者の集まりです。誰の息も関係づつの上陸のケアの相談場所を創出していきます。カフェを動かすように気軽にご参加ください。

ケアカフェでは、音楽の流れるカフェのような雰囲気の中で、コーヒーなどを飲みながら5-6人のグループに分かれて、テーマに沿った会話を楽しみます。席替えをして話を深めながら内容を参加者（お客さん）全員で共有しているような意見を持ち帰ることを目的としています。最後は、自由に交流する時間を設けています。



【日 時】平成27年8月4日(火) 18:15 open
 19:30 closed

【場 所】三友堂病院5階レクリエーションルーム

【テーマ】「聞いてみよう。話してみよう。緩和ケアのこと」

- 【対象者】医療・介護・福祉に携わっている方
 【参加費】無料
 【持ち物】●第三フレートかまぼこ、社庫で使われているもので結構です。お持ちでない場合、こちらで準備します。
 ●マグカップなどのコップ
 落として壊れると悲しいので、2層目に
 気に入っているものをお持ちください。

お申し込みは、この日まで
 電話で事務局
 までお願いします。

山形県立北郡健康事業
 お申し込み・お問い合わせ先：三友堂病院健康増進ケアセンター 事務局
 TEL 0238-24-8925 FAX 0238-26-0222